

川崎市聴覚障害者情報文化センターだより

◎新年度の挨拶◎

施設長 尾上 秀夫

昨年度は当センターの事業に対して、様々なご支援を賜り、ありがとうございました。

1. 平成31年4月のスタートの時点では、手話通訳派遣コーディネーター正職員1名欠員の状況でスタートしましたが、6月に欠員であった正職員を配置することができ、正職員8名、常勤嘱託4名、非常勤職員4名の16名の職員体制で進めました。
令和2年4月1日のスタートの時点では職員の欠員状況はなく、16名の職員体制で進めることができました。
2. 昨年度は、令和元年10月1日より手話通訳による「遠隔機器コミュニケーション支援事業」を試行的にスタートし、その事業を当センターが受託したことが大きな出来事になります。公的機関における遠隔手話通訳の担い手は地域の手話通訳派遣事業所(当センター)でなければならないことを川崎市行政が共感を持って受け止めていただいたことは大きな前進であったと考えております。
将来的にはICT技術を活用した情報保障等が一般的なものになることを見越して、それにふさわしい職員体制を川崎市に求めていく必要があります。
3. 今年度は次期の指定管理の募集があります。次期の指定管理(令和3年度～令和7年度)の事業内容等が決まる大切な年でもあります。川崎市障害福祉課と密に協議を積み重ねながら、少しでも前進することができるよう努めていきたいと思っております。

【緊急情報】 新型コロナウイルス感染症について

川崎市公式ホームページの動画に 手話通訳・文字起こし文がついています

川崎市では、新型コロナウイルス感染症の現状を踏まえ、イベント開催の注意点、主催者・参加者が気をつけること、不要不急の外出について解説動画を公開しています。

(解説：川崎市健康安全研究所所長 岡部信彦先生)

■第1弾(令和2年2月7日現在)

【新型コロナウイルス】新型肺炎について～正しい情報で正しい行動を～ (文字起こし文付き)

■第2弾(令和2年2月21日現在)

新型コロナウイルスについて～今、イベント開催において気を付けること～ (文字起こし文/手話通訳付き)

当センターのホームページ「更新情報」→「新型コロナウイルスについて」ページからリンクもしています。

※厚生労働省の新型コロナウイルス感染症にかかる相談窓口

聴覚に障がいのある方をはじめ、電話での相談が難しい方に向けた個別の窓口は以下になります。

FAX 番号：03-3595-2756

メール：corona-2020@mhlw.go.jp

◎補聴器とコミュニケーションの講座実施報告◎

昨年度は7～8月宮前区（宮前老人福祉センター）、10月中原区（情報文化センター）、2月幸区（さいわい健康福祉プラザ）の3カ所で「補聴器とコミュニケーションの講座」を開催しました。

宮前区はのべ148名、中原区は85名の参加でした。

幸区は残念ながら、新型コロナウイルス感染防止の観点から、最終回の第4回は中止となり、全3回の開催となり、のべ73名でした。

講座の募集を通じて、聞こえに困っている方、補聴器を買っても使いこなせない方、身近な方や自分自身の聞こえの低下に備える、といったニーズが多いことがわかりました。



補聴器について、知識を得る機会が少ないと思います。

この講座では補聴器だけでなく、その限界を補う様々なコミュニケーション手段の知識も合わせて学べるように計画しています。

高齢化社会が進む昨今、聞こえの悩みを持つ方は増える一方だと思います。講座の意義を意識しながら、今後も開催していきたいと思っています。

今年度は中原区、川崎区、麻生区で開催の予定です。

第13回川崎市聴覚障害者情報文化センターまつり中止のお知らせ

報道等でご存知の通り、新型コロナウイルスの感染拡大が続いており、予断を許さない状況です。川崎市内におきましては、すでに39例の患者の発生が報告されております（4月2日現在）。この状況に鑑み、誠に残念ではありますが、第13回川崎市聴覚障害者情報文化センターまつりを中止とさせていただきます。準備にご協力いただきました皆様、楽しみにして下さった皆様には申し訳ございませんが、なにとぞご理解いただきますようお願い申し上げます。

◎ 備えるフェスタ2020 報告◎



2月15日(土)、ラゾーナ川崎プラザで開催された防災イベント「備えるフェスタ2020」に、聴覚障害者災害対策委員会のメンバーが参加し、来場者の皆様に啓発活動を行いました。川崎駅直結の大変便利な場所で行われ、たくさんの方にブースにお立ち寄りいただきました。ヘッドフォンを使っての難聴体験、ホワイトボードで



の筆談体験、手話体験を通し、聴覚障害者と実際にコミュニケーションを取っていただきました。聴覚障害者とのコミュニケーションは初めてという方がほとんどでしたが、話を通じると、双方に笑顔がこぼれます。もし災害が起こってしまったとき、この日の体験を思い出し、聴覚障害者へご協力をいただけたらこんなにうれしいことはありません。そして災害が起こらなくても、聴覚障害者に出会ったら、見てわかる方法で伝えてください!

◎全国聴覚障害者情報提供施設協議会第3ブロック研修会参加報告◎

2月13日(水)に聴覚障害者情報文化センターにて全国聴覚障害者情報提供施設協議会第3ブロック研修会が行われました。第3ブロックのエリアは、関東地区となっており、現時点では10箇所の聴覚障害者情報提供施設となります。

今回は、社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会の事業本部長の近藤幸一氏による講演「手話通訳派遣事業所『評価システム』の課題と今後の方向性」があり、それを受けて、東京での入札状況の報告がありました。

令和3年度からスタートする予定の公共インフラとしての電話リレーサービスの開始等の情勢を踏まえて、手話通訳者の養成、派遣、人材の確保等の課題について、意見交換を行いました。

今後も、国の動向に注視しながら、各地域での登録手話通訳者の人材確保や聴覚障害者福祉に関わる諸々の事業の入札状況等、多方面に向けてアンテナを張り巡らし、適切な対策が取れるよう準備しておく必要があると感じました。

◎聴覚障害研修実施報告◎

障害福祉課主催の、令和元年度2回目の「聴覚障害者対応研修」を1月28日(火)の午後に行いました。川崎市行政職員対象の研修ですが、今回はより深く実践的な内容を、ということで、これまでの研修を基礎編として、ステップアップを図る実践編と位置づけました。

「区役所のろうあ者・難聴者相談とは、どんなことをしているのか(日常生活用具の説明)」、「手話通訳・要約筆記とは(手話とはどんなことば)」など、より掘り下げた内容で行いました。

また遠隔機器コミュニケーション通訳のデモンストレーションも数名の方にいただき今後の利用をお願いしました。

感想として、「窓口で大声で対応しがちだったが、今後は適切な対応をしたい」「母語が何か、という視点が必要だった」「遠隔通訳を利用したい」と聴覚障害者への対応への理解が深まったようでした。

窓口対応の仕事をしている方はもちろん、されていない方もいらっしゃいましたが、今後の行政の仕事に役立てていただけるといいと思いました。



◎手話通訳者現任研修『電話通訳パート2』◎

1月10日(金)、手話通訳者現任研修として10月に引き続き、『電話通訳』を学習しました。前回グループワークで整理した電話通訳のポイントや、ろう者からのコメントを踏まえ、電話通訳で何か起き、通訳はどう対応するのか、またそれは何故か、理由まできちんと考えることを意識し、話し合いました。その後は「母親への電話」と「コールセンターへの電話」という2つの電話通訳場面を再現。課題を散りばめたシナリオに苦しみながらも、実際に担当した通訳者をはじめ、ろう者、参加者から具体的な場面を題材にした感想、質問、意見が出されました。時間の都合で未消化の部分も多く残念ですが、今後の現場で、学習が支えとなり、落ち着いたより良い対応に繋がることを願います。

◎登録要約筆記者 現任研修報告 1◎

1月30日(木)に登録要約筆記者現任研修(情報文化センター担当)を開催しました。1月30日(木)のテーマは「難聴者とともに事例検討」と題してNPO法人川崎市中途失聴・難聴者協会(以下:川難聴)より1名のご協力をいただき、手書き・パソコンならではの事例をグループで討議を行い、全体発表のあと意見交換を行いました。グループ討議では川難聴の方にも討議に加わっていただき、当事者としての意見を出していただきました。全体発表と意見交換では難聴者相談員のアドバイスなどもあり、「当事者の話を聞くことができ良かった」、「難聴者相談員のアドバイスが勉強になった」という感想が寄せられました。今回は手書き登録のみの方、パソコン登録のみの方の出席となりましたが、手書きとパソコンのそれぞれの課題を共有することができ有意義な研修になったと思います。



◎登録要約筆記者 現任研修報告 2◎

2月8日(土)に登録要約筆記者現任研修(情報文化センター担当)を開催しました。北陸学院大学の勝谷紀子先生をお招きして「対人援助技術」をテーマにご講演いただきました。難聴当事者である勝谷先生のご自身の体験や心理的支援のあり方、「聞こえカフェ」などの活動をご講義いただいたあと、NPO法人川崎市中途失聴・難聴者協会(以下:川難聴)の出席者も一緒に「難聴者を含むグループワークでの情報保障」についてグループに分かれて話し合いました。川難聴の出席者からは「全体投影が情報共有として良い」「要約筆記者がいることで難聴者がいると分かる」「音声認識アプリは誤変換があるので大事なところは書いてほしい」というご意見が挙がりました。難聴者の視点から支援のあり方を考えることができた貴重な研修となりました。今年度も有意義な研修が実施できるようにしたいと思います。

各種講座の終了と統一試験報告

◎手話養成講座 基礎編(奉仕員養成)、通訳Ⅰ・通訳Ⅱ(通訳者養成)終了◎

令和元年度手話奉仕員養成講座<基礎編>は川崎区コースが2月13日(木)、中原区コースが2月29日(土)に閉講しました。今年度は合計で24名が修了されました。また手話通訳者養成講座<通訳Ⅱ>は1月11日(金)に11名の方が、<通訳Ⅰ>は2月29日(土)に12名の方が修了されました。

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により川崎市からの通知を受け、通訳Ⅰと基礎編中原区コースの最終講座及び閉講式を中止いたしました。しかし全講座、終了後のアンケートには、「手話の奥深さを知った」「挫折そうになったけれど仲間のやる気を感じ、自分もチャレンジする勇気もらった」など、非常に前向きな意見が多くありました。受講生の方々には、今後も手話の学習を続けていただければと思います。

令和2年度の各養成講座は新型コロナウイルスの状況を確認しながら随時、当センターのホームページでご案内いたします。

養成講座開催情報は
こちらから!

当センターのホームページにアクセスし、
以下のボタンをクリックして
ご確認ください。

手話及び要約筆記等を学ぶには
講座・教室情報

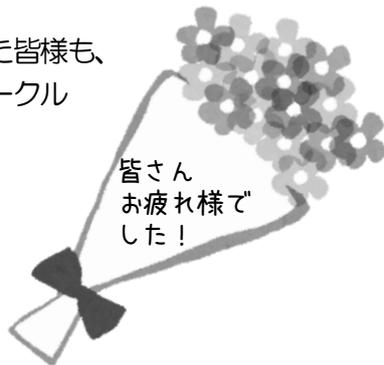
◎令和元年度手話通訳者全国統一試験結果報告◎

12月7日(土)に行われた手話通訳者全国統一試験の結果、受験者11名のうち3名が合格、『手話通訳者B』として認定されました。

今回、認定された3名の方々には、令和2年度4月からの新登録研修ののち、川崎市登録手話通訳者としての活動に加わっていただきます。また手話通訳士試験の合格者2名も『手話通訳者A』として認定されました。

令和元年度手話通訳者全国統一試験の合格率は、20.04%でした。

今回合格とならなかった皆様も、ろう協の行事や手話サークル活動等を通じてろう者の手話に触れ、再び試験に挑戦してくださいることを願っています。



◎要約筆記者養成講座、全国統一要約筆記者認定試験◎

令和元年度も無事に要約筆記者養成講座が終了しました。84時間という長丁場の講座でしたが、受講生の皆さんには熱心に講座に通っていただきました。本講座の目的は、その名の通り、要約筆記者の養成をすることですが、講座でご提出いただくレポートやアンケートを拝見していると、これまで聴覚障害者に接する機会がなかった市民の皆様にも、本講座を通じて聴覚障害者への理解を深めていただく機会にもなっていると感じます。当センターの講座では、カリキュラム外ではありますが、難聴者と直接コミュニケーションを取っていただく「筆談おしゃべりタイム」や「センター見学会」などの時間も設けており、学びを深めるための工夫をしています。

2月16日(日)には、全国統一要約筆記者認定試験が行われ、手書き2名、パソコン4名の合格者を輩出することが出来ました。ご活躍を期待しております。

職員研修報告

◎手話通訳士研修会【研修Ⅲ】◎

12月15日(日)愛知県豊橋市障害者福祉会館で開催された、日本手話通訳士協会主催「手話通訳士研修会【研修Ⅲ】～手話通訳士の成長を促すスーパービジョン～」に参加しました。九州産業大学人間科学部の倉知延章氏を講師に招き、当日はピアスーパービジョンに絞って研修が行われました。手話通訳者としての身分保障やピアスーパービジョンの機能と意義等の講義を受けたのち、ピアスーパービジョンを実際に体験。受講生のうち数名がケース報告を行い、ファシリテーターは同じ会場で同時開催されていたファシリテーター養成研修の受講生が担当しました。報告者が自身の心理に気づくよう、参加者全体をその方向に導き、時には参加者に警告を促す役割も果たすファシリテーターがいかに重要な存在であるか。地域での実践においては、このファシリテーターの確保がカギとなり、そしてピアスーパービジョンは「根本(基本)を理解していることが前提」であることを参加者全員が共有できてはじめて効果的な取り組みとなることを再認識した研修でした。

◎「全国ろうあ者相談員研修会・全国職業安定所手話協力員等研修会兼ろうあ者労働問題フォーラム」◎

1月24日(金)、25日(土)の2日間、大阪で開かれた標記研修に参加しました。大人数の研修会でしたが、両日とも10名弱のグループでケース検討を行う時間がありました。全員参加の意見交換にKJ法が有効で、短時間に考えをいくつかのポイントで整理し、発表まで行うことができました。初対面のメンバーで集中して議論ができたように思います。分科会の助言者からあった、ろう者の問題をどう周囲に知らせるか、という戦略的な話が興味深く、他県のろうあ者相談員のお話には普段の業務に通じるところも多く、充実した2日間でした。

◎ 関東ろうあ者相談員連絡会 ◎

2月28日(金)、聴覚障害者情報文化センターにて第5回関東ろうあ者相談員連絡会が開催されました。当日は、全国ろうあ者相談員連絡会代表者ブロック会議についての報告、九州産業大学人間科学部の倉知延章氏による講演がありました。テーマは「相談員の質～福祉専門職としての相談支援業務～」。社会福祉専門職としては、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士があるが、ろうあ者相談員は聴覚障害者に特化したソーシャルワーカーの役割を負っている。援助過程としてインタビュー・アセスメント・プランニングがあり、ニーズを整理してポイントを絞る作業が必要であるという内容でした。信頼関係の確立方法についても話があり、最後に演習。普段の相談業務で上記のことができているかを振り返ることができ、よいきっかけとなりました。

ビデオ通信 73

●センターよりお知らせ



貸出ベスト5

(2020年1月1日から3月31日現在)

順位	ジャンル別	本数
1位	センター制作分	66本
2位	手話学習	12本
3位	みるっく	5本
4位	記録・報道	3本
4位	映画・ドラマ	3本

●データ紹介

	1月	2月	3月	合計
来所者数	1,498	1,100	420	3,018
ビデオ貸出数	29 (28)	34 (23)	29 (15)	92 (66)

※ビデオ貸出数の下の()内の数は、当センター制作分の貸出数です。

- 2019年度聴覚障害者向け映像ライブラリー事業のDVDが納品されました。登録作業が完了し次第、貸し出しを行います。
- 今村彩子さんの監督作品4作を購入しました。
「11歳の君へ ～いろいろなカタチの好き～」
「自転車日本縦断ロードムービー Start Line」
「架け橋 きこえなかった3.11」
「珈琲とエンピツ」
- DVDの棚が新しくなりました！
配架スペースが増えました。今後も見たいDVDなどがありましたら是非ご意見お寄せください。



ホームページ

<http://www.joubun.net/>

ツイッター 時々つぶやいています☆

<https://twitter.com/DKawasakiJoubun>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/Dkawasakijoubun>

<休館日のお知らせ>

休館日は毎週月曜日と祝祭日です。
月曜日が祝祭日の場合は、翌日の火曜日も休みとなります。(休館日)

2020年4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

2020年5月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2020年6月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

2020年7月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

新型コロナウイルスの不安が大きくなっている中、当センターも主催事業の中止などで、皆様にご不便をおかけしています。
手洗いをする、人の多いところに行かない、嘘のニュースに惑わされない…それぞれができることを続けていきましょう。
皆様が無事でこの時を乗り切れることを、職員一同願ってやみません。